

モロヘイヤ (シナノキ科)

インド、エジプトなどの熱帯地方で古くから栽培され、カルシウム、カロテン、鉄分を豊富に含む。

作型	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
露地栽培					保温 播種	定植	収穫						

1) 適地

高温多湿の気候を好みますが乾燥にも強い。有機物に富む耕土の深い肥もちの良い畑で良く生育します。

2) 品種

特に品種分化はしていません。

3) 作り方

【播種・育苗】72穴または9cmのポリポットに種を5～6粒播き、2～3mm程度覆土してハウスなど保温のできる場所で育苗します。10日程で発芽しますので、本葉が2枚程度に育つまでに間引いて1株にします。

【圃場の準備】定植の1か月前に1m²当たり堆肥2kg、苦土石灰100g、BMようりん50gを施用して耕耘します。定植の1週間前には1m²当たり高度化成肥料60gを施し、幅135cmの畝を立てます。畝立て後にマルチを張ると地温を高めることができます。

【定植】十分に地温が上がる時期になってから行います。条間50cm、株間40cmの2条植えにします。定植後は十分に灌水し、活着を促します。

【管理】草丈が30cm程度になった頃、主枝を摘芯します。

【追肥】収穫が始まる頃から2週間に一度、1m²当たり高度化成肥料30gを施用します。マルチをしている場合は株間へ穴肥します。マルチをしていない場合は、追肥後に中耕して雑草防除を行います。

【収穫】1回目の収穫は草丈が50cmになった頃に、1～2芽を残して上部15cmくらいを摘み取ります。その後は、発生してくる側枝の先端10cm程度の若芽を摘み取っていきます。8月下旬頃から開花が始まると、新芽の伸長が抑制されるので、時期を見て収穫を終わめます。

4) 病虫害防除

病害はほとんどありませんが、害虫はアザミウマ類、アブラムシ類、コガネムシ類、ヨトウムシ類、ハダニ類などが発生するので、早めに防除します。